

[資料]

コロナ禍の看護基礎教育施設における代替学内実習の 現状に関する文献レビュー

高 島 利 吉 野 拓 未
井 上 加 奈 子 荒 尾 博 美

Literature review on the current state of alternative on-campus training in basic nursing
education facilities during the COVID-19 pandemic

Toru TAKASHIMA, Takumi YOSHINO, Kanako INOUE, Hiromi ARAO

和文抄録

本研究は、2019年～2022年の間に日本国内で発表されたコロナ禍の影響を受けて大学内で実施された代替学内実習の現状を明らかにし、今後の看護基礎教育への示唆を得る事を目的とした。論文は7件が該当し、代替学内実習の科目は看護過程実習5件、基礎看護学実習11件、コミュニケーション実習1件であった。対象学年は、1年次2件、2年次4件、3年次学士編入1件であった。代替学内実習の方法としては、全てでオンライン学習が導入され、複数の方法を組み合わせて実施されていた。また、代替学内実習の動向として、シミュレーションが今後、実習展開のメインとなる事が予想された。一方、代替学内実習における課題に教員、実習環境および模擬患者が挙げられていた。今後、代替学内実習はオンラインツールを可能な範囲で有効活用し、他大学で実施されている代替学内実習の工夫を参考にして教育内容の質を担保できる実習内容の検討が必要である事が示唆された。

キーワード：コロナ禍、看護基礎教育、代替学内実習、オンライン実習

I 緒言

看護基礎教育において、「看護の臨地実習は、看護職者が行う実践の中に身を置き、看護職者の立場でケアを行うことである。この学習過程では、学内で学んだ知識・技術・態度の統合を図りつつ、看護方法を習得する。学生は、対象者に向けて看護行為を行い、その過程で、学内で学んだものを自ら実地に検証し、より一層理解を深める。言い換えると、看護の方法について、『知る』『わかる』段階から『使う』『実践できる』段階に到達させるために臨地実習は不可欠な過程である」¹⁾と位置づけられた。また、「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会」で取りまとめられた「看護学教育モデ

ル・コア・カリキュラム」において、臨地実習は、「看護系人材として求められる基本的な資質と能力を常に意識しながら多様な場、多様な人が対象となる実習に臨む。その中で知識・技術の統合を図り、看護の受け手との関係形成やチーム医療において必要な対人関係能力や倫理観を養うとともに、看護専門職としての自己の在り方を省察する能力を身に付ける」²⁾と述べられている。

このように臨地実習の重要性が述べられている中、2019年から続く新型コロナウイルス感染症の拡大により、現在、看護基礎教育施設においても臨地実習施設から実習中止の要請が相次ぎ、従来の実習形態での臨地実習を展開していく事が困難な状況が生じている。日本看護系大学協議会の調査によると、

2020年1月～9月までに臨地実習を中止した大学が回答大学全体の74.1%を占め、臨地での実習が可能となった大学でも58.5%が臨地での実習時間を短縮し、学内またはオンラインでの補完を行っていた³⁾。長引くコロナ禍において、臨地実習は今後も制限される事が推察されるため、臨地実習に代わる学修内容を組み立てる必要がある。厚生労働省においても代替の実習形態を認めているが、「学内での演習により代替する場合は、シミュレーション機器や模擬患者等を用いて、日々変化する患者の状態をアセスメントする演習や、学生同士による実技演習、患者とのコミュニケーション能力を養う演習等、可能な限り臨地に近い状況の設定をし、演習を行うこと⁴⁾」としている。学内での実習（以下、代替学内実習）で学修する学生は、自宅や施設、医療現場で療養生活を送る患者を対象とする事ができないため、代替学内実習では教育内容の質を保証する必要がある。そこで、今後の代替学内実習における学習効果の示唆を得るために、これまでに代替学内実習に関して報告された論文から課題を明らかにする事は、看護基礎教育の発展に寄与できると考える。

以上より本研究は、コロナ禍の影響を受けて実施された臨地実習の代替学内実習がどのように行われているか、その現状を明らかにし、今後の看護基礎教育への示唆を得る事を目的とした。ここでの代替学内実習とは、コロナ禍の影響を受けて、予定通り臨地で実習ができないため実習を大学内で実施する事とする。

II 方法

1. 分析対象論文

代替学内実習に関する2019年～2022年の間に日本国内で発表された論文を対象とした。研究論文の検索は、医学中央雑誌 Web 版および CiNii を用いた。キーワードは、“代替”“臨床・臨地実習”“看護”“基礎教育”とし、本研究の趣旨に沿った論文で原著論文ではないものは除外し、最終的に研究の概要が記述されている要旨（要約あるいは抄録）が含まれた論文7件を採択した。

2. 分析方法

1) 分析対象論文の概要（表1）を作成し、「著者（発行年）」「テーマ」「学年」「科目名」「研究目的」「データ収集方法」を項目として挙げた。

- 2) 分析対象論文で行われた「実習目標」「代替内容」「結果」「課題」を表2に分類した。
- 3) 分析対象論文で行われた「代替内容」「学年」「分析対象論文 No.」「代替内容の合計数」を表3に分類した。
- 4) 分析の全ての過程において看護系大学の教員4名で繰り返し検討を行い、分析結果の信頼性の確保につとめた。分析過程で研究者間の意見が分かれる場合には、対象論文を読み、意見が一致するまで検討を行い決定した。
- 5) 倫理的配慮として、論文の著作権を侵害する事がないよう留意した。

III 結果

1. 研究論文の年次推移（表1）

分析対象論文7件の掲載年は、2021年は6件（86%）、2022年は1件（14%）であった。

2. 研究論文のデータ収集方法（表1）

分析対象論文のデータ収集方法は、インタビューが1件、アンケート（オンラインを含む）が4件であった。2件の論文は実践報告であったため、データ収集および分析は実施していなかった。

3. 科目名および対象学年（表1）

代替学内実習の科目名は、基礎看護学実習Ⅰ（1件）、コミュニケーション実習（1件）、看護過程実習（基礎看護学実習Ⅱ、看護展開論実習）（5件）であった。対象学年は、1年次が2件（29%）、2年次が4件（57%）、3年次学士編入が1件（14%）であった。

4. 実習内容（表2および3）

実習内容は全て異なり、どの実習も複数の方法を組み合わせられて実施されていた。中でもカルテを用いた情報収集およびカンファレンスが7件中3件と最も多く実施され、次いで動画の視聴（模擬患者を活用）、動画教材の視聴（既存の教材を活用）、グループワーク、看護計画の立案、看護ケアの実践、オンラインシミュレーション教材実習がそれぞれ2件であった。その他、対象者や家族からの情報収集、プロセスレコードの作成、フィジカルアセスメント演習、紙上事例患者の展開、患者指導、ICT教育、講義、記録用紙の修正、カンファレンスを通しての学びの加筆、自己評価、模擬患者を活用したシミュレーション演習がそれぞれ1件であった。

表 1. 分析対象論文の概要

| 分析対象論文 No. | 著者 (発行年) | テーマ | 学年 | 科目名 | 研究目的 | データ収集方法 |
|------------|-------------------------------|--|---------|-------------------|--|----------|
| 1 | 小向 他 ⁵⁾ (2021) | 代替学内実習となった基礎看護学実習 I での模擬電子カルテを用いた学習効果と今後の課題 | 1 | 基礎看護学実習 I | 代替学内実習における模擬電子カルテを用いた学習効果と課題を明らかにする。 | インタビュー |
| 2 | 樋勝 他 ⁶⁾ (2021) | コロナ禍におけるコミュニケーション実習 - 動画を通して学ぶ患者とのコミュニケーション- | 1 | コミュニケーション実習 | 病棟実習の代替として、学生が見聞きした事のない患者の生活状況や看護コミュニケーションの実践状況をイメージできるように作成した動画学習の詳細と学生の学びについて報告する。 | Webアンケート |
| 3 | 松本 他 ⁷⁾ (2021) | 2020年度看護学科のコロナ禍における2年次基礎看護学実習実践報告 | 2 | 基礎看護学実習 II (看護過程) | 詳細は不明。 | なし(実践報告) |
| 4 | 茂田 他 ⁸⁾ (2021) | COVID-19禍における学内およびオンラインによる基礎看護学実習 II の実践報告 | 2 | 基礎看護学実習 II (看護過程) | 基礎看護学実習 II の臨地実習の代替として実施した学内および ICT* によるオンライン実習について報告する。 | なし(実践報告) |
| 5 | 田中 他 ⁹⁾ (2021) | コロナ禍における「看護展開論実習」-バーチャルシミュレーション教材の導入と学生の学び- | 2 | 看護展開論実習 | 科目「看護展開論実習」の概要と vSim [®] *** を使用した受け持ち実習の概要および履修学生の学びについて報告する。 | Webアンケート |
| 6 | 佐居 他 ¹⁰⁾ (2021) | コロナ禍における「学士看護展開論実習」病棟実習困難下にて、いかに臨床を伝えるか | 3年次学士編入 | 看護展開論実習 | 実習科目「学士看護展開論実習」の代替の方法を報告する。 | Webアンケート |
| 7 | 奥平 他 ¹¹⁾ (2022) | コロナ禍における実習代替としての模擬実習基礎看護学実習での取り組み | 2 | 基礎看護学実習 (看護過程) | 在宅での模擬実習を基礎看護学実習代替としたその実践と評価について報告する。 | Webアンケート |

* : ICT

Information and Communication Technology : 情報通信技術

** : vSim[®]

看護実践の場面がバーチャル世界で再現され、かつ双方向性のあるシミュレーション教材 (vSim[®] for Nursing バーチャルシミュレーション)。使用者は、ID とパスワードで Web 上の専用画面へログインし、選択したバーチャル患者の部屋を訪室する。ヘルスアセスメントやケア、ライン類管理、安全管理、コミュニケーション等を複数の項目の中から選択し、マウスクリックで実施する。検査値等の客観的情報だけでなく、実施者が選択した質問に患者が返答する事で主観的情報も収集できる。シミュレーション終了後は、達成度がスコア化され、時系列で記録された実施内容の改善点がフィードバックされる。

全ての代替学内実習でオンラインツールを使用しており、最も多かったオンラインツールは、オンライン学習支援システム manaba で5件あった。その活用方法は、プロセスレコードの作成、グループワーク、対象者や家族からの情報収集、オンラインシミュレーション教材 vSim[®] 実習、記録用紙の修正・カンファレンスを通しての学びの加筆・自己評

価、模擬患者を活用したシミュレーション演習、模擬電子カルテによる情報収集の手段であった。

5. 代替学内実習の結果 (表2)

No. 1 では、代替学内実習に対する思いは、【学内で実習する事への安堵】、模擬電子カルテを用いた情報収集は電子カルテの基本的操作等が【できるようになった事】、今後の臨地実習で電子カルテか

表2. 分析対象論文における実習目標, 代替内容, 結果および課題

| 論文 | 実習目標 | 代替内容 | 結果 | 課題 |
|----|--|--|--|--|
| 1 | 代替学内実習において、電子カルテからの情報収集を体験する。 | 1. 模擬電子カルテを用いた情報収集 電子カルテの構成は「患者情報」「経過記録」「経過表」「検査結果」「注射・内服」「医師指示」「放射線画像」(内容は実習期間毎日更新)とした。 ※模擬電子カルテ ホームページ作成ソフトで作成し、HTML ファイルを学内のサーバーにアップロードした。 | 代替学内実習に対する思いは、【学内で実習する事への安堵】と【臨地実習を経験しない事への心残り】、模擬電子カルテを用いた情報収集は電子カルテの基本的操作等の【できるようになった事】と情報の整理・選択等の【できなかった事】、今後の臨地実習で電子カルテからの情報収集を行う事について【学内実習で習得できた自信】【臨地実習に対する不安】【実習前の学習機会の要望】のカテゴリーに統合された。 | ・学生がどのような視点で情報を取得し、アセスメントしているのか、どのような点でつまづきが見られるのか着目しながら学生個々のレイタネスに応じた指導介入を行う必要性が示唆された。 ・模擬電子カルテの基本的操作のみならず、情報を選択・整理し、活用できるという視点からの援助を重視する必要がある。 ・社会的側面についての分析が不足していた可能性があり、今後の模擬電子カルテの内容に盛り込む必要性が明らかになった。 |
| 2 | 人間と人間そして患者と看護師の関係の重要性を理解し、関係を築き・深めるためのコミュニケーションに関する概念、モデル、方法及び態度を学び、看護の基盤を創る。 | 1. 事例動画の視聴 1) 【看護学生-患者】【看護師-患者】の場面 それぞれ3事例ずつ合計6事例(6事例いずれも2~3分程度) 2) 【看護学生-患者のコミュニケーション場面】 動画シナリオは、①乳がんの術後2日目の患者、②ナースステーションで待機する高齢患者と看護学生、③左半身麻痺の患者と看護学生 3) 【看護師-患者のコミュニケーション場面】 動画シナリオは④肝臓がんで痛みのある患者と新人看護師、⑤肝臓がんで痛みのある患者と経験豊富な看護師、⑥乳がん術後の退院間近な患者と担当看護師 2. プロセスレコードの作成 6つの場面動画(シナリオ①~⑥)を全て視聴し、そのうち2事例を選択してプロセスレコードを作成後、オンライン学習支援システム manaba で同じ事例を選択した学生の記録物を相互閲覧し、自身の記録を加筆修正した。 3. グループワーク 作成したプロセスレコードの事例が重複しないようグループを編成し、manaba とオンライン会議ツールを用いてグループワークを実施した。 | 学生は動画を閲覧後、プロセスレコードを作成する過程を通して看護コミュニケーションの目的や効果を学び、患者と対話する状況を想像して具体的な課題を見出す事ができていた。 | ・緊張感を伴うシミュレーション学修、コミュニケーションスキルを体現できる場を今後も模索していく必要がある。 |
| 3 | 対象者を身体面、心理面、生活・社会面から包括的に理解し、看護過程を段階的に展開できる基礎的能力を養う。また、看護師に必要な態度を養う。 | 1. 模擬カルテからの情報収集 電子カルテの構成は「問診表」「経過表」「検査データ」「投薬指示」は1日ずつ更新し、紙媒体でファイリングし提示した。 2. 対象者や家族からの情報収集 学生が manaba に会話形式で学生が入力し、教員が応えた。 3. 動画視聴(車いす転落事例)・カンファレンス DVD 視聴後、カンファレンスを実施した。 4. フィジカルアセスメントの演習 5. 看護計画の立案 看護過程の展開を通し、事例患者に必要な看護計画を立案した。 6. 看護ケアの実践 看護実習モデル人形に陰部洗浄、体位変換、清拭、洗髪、手足浴、車椅子移乗、食事セッティング、環境整備、口腔ケア、義歯のケアを実施した。 | 1. 看護過程の展開や看護技術、感染予防策の実施等、今後学生が臨地実習へ向けて活用できる事を修得する事ができた。 2. 学生同士や教員とのディスカッションを積極的に行う事ができ、学生の満足度も高いものであった。 | ・患者の反応を観察して臨機応変に対応する事 ・患者、患者家族、看護師等の臨地での人間関係の構築 |
| 4 | 看護の対象者に関心を持ち、尊重し、理解を深める。情報収集とアセスメントをとおして個別性に合った看護ケアを提供するための看護過程を学ぶ。看護師に必要な専門的態度について理解を深め、行動し、今後の学習に向けた自己の課題を明確化する。 | 1. 紙上事例患者の展開 実習1・2・4日目に受け持ち患者の情報シートを更新し、配布した。 2. 看護技術の実践 2日目に筋肉内注射、5日目に足浴実施後、看護師役の教員へ報告した(模擬患者(教員))。 3. 患者指導(模擬患者:教員) グループで実施した(8日目)。 4. ICT教育(8日目) 5. 講義・グループワーク・学びの発表(6日目) 「心に残った看護」(講義形式で教員2名が実施)の講義後、グループワーク、学びを発表した。 6. 既存の動画教材の視聴(7日目) 看護学生が患者と接している3場面を視聴した。 | 学生自身がモチベーションを維持しながら実習目的・目標に向かって成長を実感した。 | ・学内およびオンライン実習の学習効果 ・学内およびオンライン実習の得られた強みと改善点を明確にし、ウィズコロナまたは其れが終息したからの時代に向けて、実習の在り方を進化させながら汎用性の高い教育方法の検討 |

| 論文 | 実習目標 | 代替内容 | 結果 | 課題 |
|----|---|---|---|--|
| 5 | 既習の学習内容を活用し、患者への理解を深め、患者にとって安全安楽な看護を、看護過程を用いて展開する事。 | 1. オンラインシミュレーション教材 vSim® 実習 vSim® の既存の設定患者から「看護展開論実習」で担当する事の多い4例のうち1事例を学生に割り当て、1グループの中で同じ患者を受け持つ学生が2人までになるように配置した。2日間のうち1日目にvSim® にアクセス後、受け持ち患者の情報収集とアセスメントに基づいたケアを実践し、記録用紙を作成した。記録用紙は、①事例患者の紹介、②患者に実施（観察）した内容・根拠・結果、③vSim® を体験して感じた事・学んだ事を記載した（manabaに提出したが、グループ内で提出済みの学生が相互閲覧できる設定とした）。 2. カンファレンス・発表・ディスカッション) 2日目午後にWeb会議システムを使用したカンファレンスにおいて、学生の発表（記録用紙の内容およびグループメンバーと検討したい点）とディスカッション（学生主体）を行った。 3. 記録用紙の修正・カンファレンスを通しての学びの加筆・自己評価 実習後は一度提出した記録用紙の内容を必要時修正し、④vSim® 事例共有カンファレンスを通しての学びの加筆、⑤実習目標5項目達成度の4段階自己評価の記載を課題とした。実習から5日後にmanabaに提出した（自己評価が含まれているため学生同士では相互閲覧できない設定とした）。 | 実習記録から本科目の実習目標に沿った看護展開に関する様々な学びやバーチャル教材ならではの学びがあった。 | ・バーチャル教材の優れている点と課題を理解しながら、実習科目内や実習前準備学習等に組み込む事を検討し、学生の実践能力向上の方法を模索していく必要がある。 |
| 6 | 患者にとって安全安楽な看護を、日常生活援助を行いながら、看護過程を用いて展開する事。 | 1. 模擬患者を活用したシミュレーション演習 学生5～6名（1グループ）で看護過程を展開する演習において、看護過程の各プロセスを事前課題とし、各学生がグループ演習当日朝までにmanabaに提出した。模擬患者への実践はグループ内の学生2名で行った。 2. オンラインシミュレーション教材 vSim® 演習 看護展開論実習で担当する事の多い疾患を6事例の1事例を学生に割り当て、各自がvSim® で体験した内容を共有するため学びの内容を発表した。 | 1. アンケート結果（回収率68%）から「シミュレーション演習」の平均点は10段階中8.9点、「病室の動画教材」は8.7点。 2. 「病棟実習と異なり、じっくり事例に取り組めた」「手技やコミュニケーションをもっと実践で行いたかった」「病棟で実習出来なくて不安」等の自由記述があった。 | ・本科目の方法の改善を含めた、実習代替え方法の検討 |
| 7 | 健康課題を有し入院療養中の看護の対象に対し、基本的ニーズに基づく情報収集、情報のアセスメント、ニーズの充足状態の評価、看護目標の設定、看護計画の立案、看護実践および評価の一連の看護過程の展開を学修する。 | 1. 模擬電子カルテによる情報収集（manabaによる教材配信） 電子カルテの構成は、「体温表」「医師カルテ」「看護カルテ」 2. 動画教材の視聴 臨床指導者役、学生役、患者役を教員が演じ、撮影した。内容は「病棟オリエンテーション」「受け持ち患者さんへの挨拶」「実習指導者への挨拶・実習目標の発表、物品の確認、バイタルサイン測定」「清潔ケア（全身清拭の部分介助）、使用物品の片づけ・ごみの分別」「排泄ケア」「昼食の配膳と食事場面の観察」「多職種リハビリカンファレンス」とした。 3. 看護計画の立案 実習6日目まで患者情報を更新し、情報収集およびアセスメント、実習7・8日目に看護計画の立案、実習9日目に学内演習室で模擬患者に立案した計画を実施し、実習10日目にまとめを行った。 | 1. 模擬実習ではグループディスカッションや個別指導が容易にできる環境等により、知識面の強化ができていた。 2. アンケート結果（回収率76%）から臨地実習のイメージをつける事は難しく、学生は看護技術やコミュニケーション技術に不安を抱いていた。 3. 限られた情報という制限はあったものの、動画教材や模擬電子カルテ等を取り入れた事は学生の学習に対する興味・関心を促進でき、満足度が高い実習となった。 | ・学生が病院で実習をしているイメージを持つまでには至らなかった。 ・実際の臨地実習における看護技術やコミュニケーション技術に不安を抱いていた。 |

表3. 分析対象論文における代替内容の比較

| 代替内容 | 学年 | 分析対象論文 No. | | | | | | | 代替内容 の合計数 |
|---|--------------|------------|---|---|---|---|---|---|--------------|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | |
| カルテを用いた情報収集(模擬電子カルテまたは 模擬カルテ) | 1・2 | ○ | | ○ | | | | ○ | 3 |
| 対象者や家族からの情報収集(manabaを通して 学生が質問し, 教員が答える) | 2 | | | ○ | | | | | 1 |
| 動画の視聴(模擬患者を活用) | 1・2 | | ○ | | | | | ○ | 2 |
| 動画教材の視聴(既存の動画教材を使用) | 2 | | | ○ | ○ | | | | 2 |
| プロセスレコードの作成 | 1 | | ○ | | | | | | 1 |
| グループワーク | 1・2 | | ○ | | ○ | | | | 2 |
| カンファレンス(発表・ディスカッション含む) | 2 | | | ○ | ○ | ○ | | | 3 |
| フィジカルアセスメントの演習 | 2 | | | ○ | | | | | 1 |
| 看護計画の立案 | 2 | | | ○ | | | | ○ | 2 |
| 看護ケアの実践(模擬患者(教員)または看護実習 モデル人形の活用) | 2 | | | ○ | ○ | | | | 2 |
| 紙上事例患者の展開 | 2 | | | | ○ | | | | 1 |
| 患者指導(模擬患者(教員)の活用) | 2 | | | | ○ | | | | 1 |
| ICT教育 | 2 | | | | ○ | | | | 1 |
| 講義 | 2 | | | | ○ | | | | 1 |
| オンラインシミュレーション教材vSim®実習 (バーチャル患者) | 2 3年次学士編入 | | | | | ○ | ○ | | 2 |
| 記録用紙の修正 | 2 | | | | | ○ | | | 1 |
| カンファレンスを通しての学びの加筆 | 2 | | | | | ○ | | | 1 |
| 自己評価 | 2 | | | | | ○ | | | 1 |
| 模擬患者を活用したシミュレーション演習 | 3年次学士編入 | | | | | | ○ | | 1 |

らの情報収集を行う事について【学内実習で習得できた自信】のカテゴリーが抽出された。No. 2 では、学生は動画を閲覧後、プロセスレコードを作成する過程を通して看護コミュニケーションの目的や効果を学び、患者と対話する状況を想像して具体的な課題を見出す事ができていた。No. 3 では、看護過程の展開や看護技術、感染予防策の実施等、今後学生が臨地実習へ向けて活用できる事を修得する事ができ、学生同士や教員とのディスカッションを積極的に行い、学生の満足度も高いものであった。No. 4 では、学生自身がモチベーションを維持しながら実習目的・目標に向かって成長を実感していた。No. 5 では、実習記録から本科目の実習目標に沿った看護展開に関する様々な学びやバーチャル教材ならではの学びがあった。No. 6 では、アンケート結果か

ら「シミュレーション演習」の平均点は10段階中8.9点、「病室の動画教材」は8.7点で、「病棟実習と異なり、じっくり事例に取り組めた」等の自由記述があった。No. 7 では、模擬実習はグループディスカッションや個別指導が容易にできる環境等により知識面の強化ができ、さらに動画教材や模擬電子カルテ等を取り入れた事は学生の学習に対する興味・関心を促進でき、満足度が高い実習となった事が報告されていた。

一方、No. 1 では、代替学内実習に対する思いは、【臨地実習を経験しない事への心残り】、模擬電子カルテを用いた情報収集の情報の整理・選択等が【できなかった】、今後の臨地実習で電子カルテからの情報収集を行う事について【臨地実習に対する不安】のカテゴリーが抽出された。また、No. 6 では、

「手技やコミュニケーションをもっと実践で行いたかった」「病棟で実習出来なくて不安」等の自由記述があった。No. 7 では、アンケート結果から臨地実習のイメージをつける事は難しく、学生は看護技術やコミュニケーション技術に不安を抱いていた等が報告されていた。

6. 代替学内実習の課題 (表2)

学生の実践能力向上の方法や実習代替え方法の検討 (No. 6) の他に学生個々のレディネスに応じた指導介入を行う必要性が示唆されていた (No. 1)。また、模擬電子カルテの情報を選択・整理し、活用できるという視点からの援助や電子カルテの社会的側面の分析が不十分であった (No. 1)。そして、学生が病院で実習をしているイメージを持つまでには至らなかった (No. 7)。さらに緊張感を伴うシミュレーション学修、コミュニケーションスキルを体現できる場を模索していく必要性 (No. 2) や患者の反応を観察して臨機応変に対応したり、臨地での人間関係の構築 (No. 3)、実際の臨地実習における看護技術やコミュニケーション技術に不安を持っていた (No. 7)。

IV 考察

1. 代替学内実習の動向

実習での報告場面がイメージでき、報告に必要な要素が理解できる事を目的に「看護師への報告」のシミュレーションが導入、報告されている¹²⁾。これまでこのようなシミュレーションの多くは、臨地実習の一部を補完する補助的な役割を担っていたが、今後、シミュレーションを実習展開のメインとする事が増えていくと予想される。

シミュレーションの長所の1つに学生が看護技術を模擬患者または看護実習モデル人形に対して繰り返し練習する事で看護技術の向上につながる。近年は在院日数の減少、入院患者の重症化、医療安全の観点等から看護系大学生が臨地実習で行う看護技術の範囲や機会が限定される傾向にある。従って、今後、コロナ禍が終息し、これまでの臨地実習が実施できる場合でも、積極的なシミュレーションの導入は、臨地実習での看護技術実施の補完やコミュニケーショントレーニング等に有用と考えられる。

2. 代替学内実習の特徴

1) 代替学内実習における共通点の傾向

代替学内実習で最も使用されていたオンライン学習支援システム manaba は、記録提出だけでなく、体調管理や学生同士の記録物の相互閲覧等、機能が多岐にわたるため今後も活用されると推察される。一方、manaba 以外のオンラインツールは、模擬電子カルテ (HTML ファイル) の学内サーバーへのアップロードや ICT 教育であった。分析対象論文全てにおいて、同じ手段ではないがオンライン学習で実施されており、代替学内実習の手段にオンライン学習は必要不可欠である事が示唆された。

オンラインツールは前述したように学生同士の記録物の相互閲覧等、臨地での実習でも活用が可能な機能も多く、今後は臨地での指導と組み合わせての活用が有効であると考えられる。本学においても新型コロナウイルス感染症拡大の影響で多くの科目がオンライン学習に切り替わった。今後、さらに感染拡大や学生だけでなく指導する教員にも不測の事態が発生する事も考えられる。そのため学内での実習展開を構築するだけでなく、常に不測の事態を想定し、オンラインでも学習できるよう予め準備しておく必要性が示唆された。

2) 代替学内実習の工夫

臨地実習ができない事により患者の療養環境や看護実践のイメージがつきにくい事が予想される。複数の論文において動画の視聴や療養環境の調整等を行い、少しでも患者が療養生活を送る看護実践の場を理解することを目的に、動画教材の視聴、対象者や家族からの情報収集、対象者を想定した模擬患者や看護実習モデル人形への看護ケアの実践が実施されていた。これらは、特に臨地実習経験がない1年次生には必要不可欠な工夫と考えられる。

模擬電子カルテは、3件で活用され、その内容は異なっていたが、カルテの内容を毎日更新する等の工夫もなされていた。電子カルテシステムを利用せずに自作の電子媒体を電子カルテのページに模している論文もみられた。模擬電子カルテは、カルテにある膨大な情報から受け持ち患者に必要な情報を選択、整理し、整理した情報を活用し、考察するために重要なツールの1つである。しかし、模擬電子カルテシステムの運用に必要な大学側の経費を含む整備が大きな課題と考えられる。また、臨地実習でも個人情報保護においては厳しく管理されている。代替学内実習をオンライン上の電子カルテで実施する場合や学生が自宅から模擬電子カルテにアクセスす

る場合には、情報漏洩の可能性等、これまで以上の情報リテラシー・ネット（オンライン）リテラシーに関する教育も今後の課題と考えられる。

3. 代替学内実習における課題

1) 教員側の課題

学生は電子カルテから取得した情報の1つ1つに対して丁寧に自己学習を行っていたが、医師記録や放射線画像等については理解が困難であり、全ての情報の理解・活用についてできなかつたと感じていた事が報告されていた。従って、教員は学生一人一人のレディネスを代替学内実習の前に確認し、学生個々のレディネスに応じて丁寧に指導する必要がある。

また、学生が本来のカルテにある膨大な情報から受け持ち患者に必要な情報を選択し、自ら整理し、整理した情報を活用し、考察する能力を養成していくためには教員による支援が必要である。

代替学内実習における対象者や家族からの情報収集や病棟オリエンテーション等の動画教材では、教員がどれだけ患者やその家族になりきって臨場感を作り出す事ができるか、シナリオ作りにどれだけ現場のリアリティを組み込む事ができるか等、教員の表現力や創意・工夫が必要である。臨地実習でしか学べない事も多くあるが、たとえ代替学内実習であっても実習内容の工夫や教員の教育力次第で、学生の学びに対して一定の効果はあると考える。そのため教員1人1人の看護実践能力、教育力向上のための研鑽や複数教員によるシナリオ作りを含む教材の開発も重要と考えられる。

2) 実習環境の課題

学生が模擬患者に対し、筋肉内注射や足浴の看護ケアを実践している論文もあった。臨地実習での看護ケア実践に代わるものであるが、臨地実習と比べて変化の少ない学内実習での適切な緊張感を保持するためにも有用であると考えられる。代替学内実習に看護ケア実践を導入するには、マンパワーやケアの提供を行うための事例等の課題があると考えられる。

また、代替学内実習の中でオンライン学習を行う場合、教育側のオンライン学習支援システムの環境整備だけでなく、学生の自宅における環境整備に費用を要する点も今後の課題と言える。

3) 模擬患者の課題

患者の反応を観察してからの臨機応変な対応や臨

地での人間関係の構築、実際の臨地実習における看護技術やコミュニケーション技術への不安の課題が示唆されていた。代替学内実習では、患者役を学生とする場合は、同級生で顔見知りである事から前述の課題を解決するのは困難といえる。加悦ら¹³⁾は、模擬患者参加型の学修は、臨地実習早期から初めて出会う患者との対応を思い描いた通りに行い、対人関係を築く事ができ、それにより実践を通して患者の気持ちや本当に必要な援助に気づく事ができ、次第にその患者に合ったケア（援助）を見出す事ができていた事を報告している。さらに模擬患者参加型授業は、看護の初心者である学生が初めての臨地実習において、その準備の段階から患者への関わり方や患者との対人関係を結んでいく事に関連づけられ、いかされていた事も報告されている。従って、代替学内実習への模擬患者の参加は、コミュニケーションを主体とした実習展開が多い看護系大学生1・2年次生にとって有効と考えられる。一方で、松谷ら¹⁴⁾は、模擬患者を活用したOSCE（客観的臨床能力試験）の難点として、模擬患者や設定等の費用がかかり、教員や学生への負担が大きい事を指摘している。代替学内実習への模擬患者の活用は、費用の面や教員や学生への負担も十分考慮する必要がある。

4. 今後の代替学内実習

2020年10月1日時点の「新型コロナウイルス感染症に関連する保健師助産師看護師養成学校における臨地実習等の実施状況調査」によると、大学の看護師等養成課程の全学年の臨地実習の代替措置（臨地の場以外での教育代替）の実施有無では、ほとんどの大学が臨地実習を学内実習やオンラインによる代替実習を実施していた¹⁵⁾。新型コロナウイルス感染症に対応する医療機関の状況によっては、今後の臨地実習もこれまで同様に実施できるとは限らない状況にある。臨地実習を代替学内実習に変更せざるを得ない状況が生じても可能な限り臨地実習に相当する学修内容が確保できるよう臨地実習のあり方について考えていく必要がある。そのためにはオンラインツールを可能な範囲で有効活用し、また、シミュレーション導入により学習目標をある程度達成できると推察される。さらに、代替学内実習における学生の声をできるだけ活かし、教育内容の質を担保できる実習内容の検討が今後の課題である。

利益相反

本研究は利益相反に相当する事項はない。

文献

- 1) 看護学教育の在り方に関する検討会. 大学における看護実践能力の育成の充実に向けて. 2002年, <https://www.umin.ac.jp/kango/kyouiku/report.pdf> [2022.8.11アクセス]
- 2) 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会. 看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標～. 2017年, https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/_icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1397885_1.pdf [2022.8.11アクセス]
- 3) 日本看護系大学協議会. 2020年度 COVID-19に伴う看護学実習への影響調査 A 調査・B 調査報告書. 2021年, <https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/covid-19cyouaAB.pdf> [2022.8.5アクセス]
- 4) 厚生労働省. 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師養成所等における臨地実習の取り扱い等について. 2020年, <https://www.mhlw.go.jp/content/000642611.pdf> [2022.8.5アクセス]
- 5) 小向敦子, 高橋有里, 井上都之, 他. 代替学内実習となった基礎看護学実習 I での模擬電子カルテを用いた学習効果と今後の課題. 日本医療情報学会看護学術大会論文集22回: 141-144, 2021.
- 6) 樋勝彩子, 鈴木彩加, 田中加苗, 他. コロナ禍におけるコミュニケーション実習 動画を通して学ぶ患者とのコミュニケーション. 聖路加国際大学紀要, 7: 177-182, 2021.
- 7) 奥平寛奈, 高瀬寛子, 柿谷絵理, 他. コロナ禍における実習代替えとしての模擬実習 基礎看護学実習での取り組み. 大東文化大学看護学ジャーナル, 4 (1): 3-14, 2022.
- 8) 松本晃子, 西上あゆみ, 長井雅代, 他. 2020年度看護学科のコロナ禍における2年次基礎看護学実習実践報告. 藍野大学紀要, 33: 44-51, 2021.
- 9) 茂田玲子, 森下純子, 田村里佳, 他. COVID-19禍における学内およびオンラインによる基礎看護学実習 II の実践報告. 国立病院看護研究学会誌, 17 (1): 60-66, 2021.
- 10) 田中加苗, 縄秀志, 樋勝彩子, 他. コロナ禍における「看護展開論実習」バーチャルシミュレーション教材の導入と学生の学び. 聖路加国際大学紀要, 8: 93-98, 2021.
- 11) 佐居由美, 西野理英, 猪飼やす子, 他. コロナ禍における「学士看護展開論実習」病棟実習困難下にて, いかに臨床を伝えるか. 聖路加国際大学紀要, 7: 148-153, 2021.
- 12) 鈴木彩加, 佐居由美, 加藤木真史, 他. 臨地実習に向けたシミュレーション教育の試み 看護師への報告. 聖路加国際大学紀要, 6: 137-142, 2020.
- 13) 加悦美恵, 飯野矢住代, 河合千恵子. 基礎看護学における SP 参加型の授業と臨地実習の連繫. 日本看護科学会誌, 26 (2): 67-75, 2006.
- 14) 松谷美和子, 三浦友理子, 平林優子, 他. 看護実践能力: 概念, 構造, および評価. 聖路加看護学会誌, 14 (2): 18-28, 2010.
- 15) 文部科学省. 「新型コロナウイルス感染症に関連する保健師助産師看護師養成学校における臨地実習等の実施状況調査」. 2020年, https://www.mext.go.jp/content/20200302-mxt_igaku-000013087_5.pdf [2022.8.11アクセス]

(令和4年8月31日受理)